

西村 勇太さん（山口県萩市出身）  
2018年度2次隊 青年海外協力隊  
派遣国：ベトナム 職種：理学療法士  
2019年9月8日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 患者自立の介助目指す

青年海外協力隊として2018年10月からハノイに赴任し、理学療法士としてリハビリテーション病院で活動をしています。近年、経済発展とともに急速な高齢化社会となりつつあるベトナムで、主に高齢者の患者に対するリハビリ知識や技術の普及に、配属先の医師や同僚の理学療法士と取り組んでいます。

活動を始めて感じたことは、この国の病院では、理学療法の時間は治療台でのマッサージのような機能訓練が主であり、患者が基本動作の獲得を目指して能動的に運動療法をする機会が少ないことです。また、同僚は、病棟や自宅生活への復帰に向けて患者を評価し、リハビリプログラムを計画・実施することが十分に行えていない印象があります。



キャプション：  
患者の様子を見てリハビリプログラムを検討する

入院患者の身の回りの介助（移乗・トイレ・歩行）は全て家族がしています。患者の自立を目指す介助ではなく、自分でできることも全て家族がする場面が多く見受けられます。このような現状に対し、私はベトナム語の習得に励みながら、同僚や患者の家族への提案、介助方法の指導を行っています。

約1年間の活動の中、私が患者に行うリハビリの様子を同僚に見てもらい、拙いベトナム語で説明しています。同僚が患者にリハビリを提供する際、起き上がり、立ち上がり、歩行といった基本動作訓練をする場面が徐々に増えてきています。

私自身もまだまだベトナム人の生活習慣やものの考え方を知っていく必要があります。2年間の活動でどれほど貢献できるかわかりませんが、ベトナムの方々のやり方に合わせつつ、私のやり方も受け入れてもらえるような理学療法を日々模索しています。